

## 第9回圧力設備規格審議委員会 議事録

1 日時: 平成21年9月10日(木) 13:30~17:00

2 場所: 第七東ビル1階会議室

3 出席者: (敬称略)

酒井委員長(TEC), 佐藤副委員長(日揮), 青木(東電), 阿部(NIMS), 石毛(IHI), 内野(東ガス), 酒井(電中研/緒方委員代理), 辻(電機大), 鈴木(KHK), 上野(ガス協会), 田原(石連), 樋口(IHIテクノ), 室伏(日立/下村委員代理), 寺田(神戸製鋼), 吉田(三井造船), 酒井(東大), 柴崎(千代田), 高橋(IHI)

事務局: 河野, 田中(HPI) 以上20名(委員数15名)

4 資料番号: 圧力設備規格審議 9

1 第8回圧力設備規格審議委員会 議事録案

2-1 HPIS Z106:2009 規格制定案に対する付議について

2-2 HPIS Z106:2009

3-1 HPIS Z107-1 TR:2009 規格制定案に対する付議について

3-2 HPIS Z107-1 TR:2009

4-1 HPIS Z107-3 TR:2009 規格制定案に対する付議について

4-2 HPIS Z107-3 TR:2009

5 HPIS 一覧表

6 JISの見直し調査(協力依頼)

## 5 議事

酒井委員長の司会のもと, はじめに代理出席の方々の紹介があった。また, 出席委員数が委員会成立の定足数を満たしていることが確認され, 以下の議事が進められた。

### 5.1 前回議事録の確認

資料9-1により, 前回議事録案が読み上げられ, 一部修訂の上, 挙手により全員一致で承認された。修訂点は次の通りとする。樋口委員の所属をIHIテクノとする。5.2項文中の下線部, “規則については, 運用過程で不具合が生じた場合は検討が必要になってくる”……。

### 5.2 HPIS Z106:2009「リスク・メンテナンスの適用ガイド」制定案について

#### 5.2.1 規格制定案に対する付議について

事務局より付議書について読み上げられた。

#### 5.2.2 審議レベル審議及び決議

提案された審議レベル(パブリックコメント実施あり)について審議された。

(問)Z107TR と対の関係とみられるが, Z106 をパブコメした場合, Z107TR もパブコメに出すことになるか。

(答)Z107TR は出さない。Z106 だけで完結したものである。Z107TR は Z106 の参考資料とす

るため TR とした。

その他、適用ガイドという名称について意見があった。審議レベル とすることについて挙手による採決が行われ、全員の賛成が得られ承認された。

### 5.2.3 制定案内容説明及び審議

酒井(信)RBM 委員会委員長より RBM 全体について以下の説明がなされた。

RBM の導入の背景は、海外では石油関連で利用が促進されており、国内でも設備が劣化している。これらに答える候補として、RBM で導入にあたって必要となるものが規格、基準であり、それを作成するため RBM 委員会(WG1,WG2 を含め)が発足し、活動してきた。

柴崎 RBM 委員会主査より Z106 について以下の説明がなされた。

手法についてのガイドのため、本文は簡潔にした。具体的内容は附属書で対応している。規格書そのものに含まれるものは、附属書 2 だけで、それ以外は参考資料の扱いである。

その後、以下の質疑応答がなされ、内容を見直すことになった。

(質) 破損発生確率の使い方に指標はあるのか。

(答) 当事者に任せるが、少なくともこういうことは考えてくださいと書いてある。具体的なやり方は、例として附属書を参照。

(質) 影響度については。

(答) 影響度についてもケースバイケースで一任となっている。全部使うか、限定して使うかは規定していない。

(質) P1 の“ 設備の使用前 ”とは、建設段階から保全の考え方を取り入れるということか。計画はいつでもいいのでは。“ 適用期間 ”は必要か。“ 適用対象 ”はもう少し明確に書いた方がいいのでは。

(答) 序文も含めて適用期間、適用対象についての記述を再検討する。

(質) リスクベースメンテナンスは、インスペクションではないか。

(答) 広い意味で考えている。

(質) 損傷感受性とは。損傷等を含め用語の定義に入れた方がいいのでは。通常使用されている用語の意味と違う使い方をしているものは、定義付けをしておいた方がよいと考える。用語の使い方をこの規格書の中だけでもいいから、きっちり定義付けしておいてもらいたい。

(答) 損傷、損傷速度、感受性は用語の定義付けをすることで見直す。

(質) 3.7 は参考とするものであるので、規格の中に入れるものか。

(答) 記述方法は見直す。

(質) P3 のタイトル 3.2.1.1 は不要では。

(答) 見直す。

(質) P7 の 3.5.3 のタイトルと記述が整合しない。

(答) 評価と是正処置の記述は、説明文に入れる。

(質) P1 の 1.4 は適用範囲に入れるものか。

(答) 3.のはじめに移す。その他、目的と適用範囲は、適用範囲だけにする。“適用ガイド”は、“適用方法”とする。

(質)掲載する名簿には、RBM 委員会、WG の両方を記載するように。

#### 5.2.4 書面投票について

上記見直しを含めて各委員よりコメントを求め、修正した内容を書面投票に諮ることについて挙手による採決が行われ、全員の賛成が得られた。

#### 5.3 HPIS Z107TR:2009「RBM ハンドブック」制定案について

提出された Z107-1TR:2009「RBM ハンドブック 第 1 部 一般事項」及び Z107-3TR:2009「RBM ハンドブック 第 3 部 応力腐食割れの損傷係数」を併せて審議することとなった。

##### 5.3.1 規格制定案に対する付議について

事務局より 2 つの制定案の付議書が読み上げられ、高橋氏(RBM 委員会 WG 2 委員)から説明がなされた。

第 2 部、第 4 部は次回提出し、審議することになる。(90%以上は出来上がっている) また、4 部構成にした理由は、一つにすると Volume 大になることと、各々が独立したものであること、更に将来的に第 5 部、第 6 部が出る可能性があるためである。影響度については、損傷形態に関係ないので第 1 部に記載した。

##### 5.3.2 制定案内容説明及び審議

高橋氏(RBM 委員会 WG 2 委員)から内容説明があり、以下の質疑応答がなされた。

(質) 損傷係数は合理的か確認されているのか。

(答) 相対的に順位が間違っていないか確認している。人の命を扱わないというのは、リスクが一番大きいことになるためである。影響面積を計算するとき、密集度、環境条件で評価する位置付けである。

(質) タイトルは、RBM か、リスクベースメンテナンスがいいのでは。

(質) Z107-1 : API の解説も記述されているのなら TR のほうがいい。TR をとるのであれば、API の解説は削除し、HPIS の解説だけにしてほしい。

(質) 掲載する名簿には、RBM 委員会、WG の両方を記載するように。

Z107-1 及び Z107-3 については、十分な審議時間が取れなかったため、審議レベル 1、TR 等を含めて継続審議とすることで了承された。なお、編集し直す等の検討を RBM 委員会に要望された。

**6 HPISの見直しについて**

次回審議となった。事務局より見直し計画案も併せて提出することとなった。

**7 次回委員会予定について**

事務局にて、12月中旬で調整することになった。

以上